

## SDGs未来都市構想/モデル事業

SDGs 姉妹都市提携 × 3つのカルチャー/アートを共創する  
リビングラボの構築

岩手県 岩手町

# 岩手町の概況

## 地理

人間が健康的で文化的な生活を営む上で最も適していると言われる**北緯40度線上に位置**、同線上にはニューヨーク、マドリード、北京など世界的に大きく発展した創造的な都市が連なり、それぞれに豊かな文化の花を咲かせている。**総面積は、360.46km<sup>2</sup>、総人口は13,032人**で、町内には東北新幹線いわて沼宮内駅があり、東京ーいわて沼宮内間は約2時間20分で結ばれている。東北自動車道/滝沢ICと西根ICに近く、鉄道・自動車の両面において高速交通網の利便性に優れた地域となっている。



## 自然

町の総面積のうち、**約75%は山林・原野**であり、**火山灰質の肥沃な土壌**と緑と広い空を感じられる豊かな自然に包まれている。東部の北上山地と西部の奥羽山脈にまたがり、町北部の御堂観音境内には東北一の大川である「北上川」の源泉とされる豊富「弓弭(ゆはず)の泉」があり、町の中央部を南下している。このような豊かな自然が、標高200～800mの緩い傾斜地が続く中に点在する耕地や集落を生み出し、その地形の差が、各々の地区に於いて異なった趣の風景や特徴ある風俗(祭祀や郷土芸能)、産業条件などをつくり出している。

## 農業

農業は**基幹産業**であり、粗生産額は約135億円である。「いわて春みどり」に代表するキャベツなど多品目における野菜生産基盤を確立している。また、大規模な畜産経営体による強い畜産生産基盤を誇り、「**食料総合生産基地**」として成果をあげている。その園芸作物を生産する耕種農家と畜産農家が連携し、堆肥を有機質肥料として地域内資源循環する「**耕畜連携による循環型/環境保全部型農業**」が岩手町の良質な土づくりを可能とし、良質な生産物により高い評価を確立することに結びついている。

## 保健福祉

保健福祉においては地域、医師、保健推進員、行政等が一体となった「**岩手町方式**」による検診体制の構築により高い検診率を達成、また地域ぐるみで高齢者の見守りなどを行う「**安心生活支援ネットワーク・安心生活あいネット**」を全国に先駆けて実施、住み慣れた地域で安心して生活できる地域生活実現のためのシステムを構築してきた。しかし、近年は、コミュニティの弱体化などの影響により、これらの特徴が失われつつあることが課題となりつつある。

## 芸術スポーツ

芸術文化では、町の各所に彫刻作品を展示、「**彫刻のあるまち**」としてまちの景観形成として芸術空間の創出に取り組んでいる。また、屋外彫刻美術館である石神の丘美術館は町のシンボルであり、2020年7月のリニューアルでは「**花とアート**」を掲げ、一層の魅力向上と賑わいの創出を目指している。

スポーツにおいては50年間取り組んできた町技としての「**ホッケー**」が幅広い世代で多くの町民に親しまれ、国体、インターハイにおける全国優勝や町出身のオリンピック選手を輩出、東京オリンピックでは、アイルランド女子ホッケー選手の事前合宿地を予定している。

# SDGs未来都市でめざす2030年の姿とトリプルボトムライン

- 町民をはじめ、町に関わる全ての人々が主体的に、喜びと誇りを高め合いながら様々な町づくりの活動を展開  
→ 3つのボトムラインを高めながら、町の持続可能性を向上

## 2030年のあるべき姿（全体）

SDGsの理念・ゴールを道標として、岩手町に関わる全ての人々が主体的に、互いに連携・協力し合って町の持続可能性を高めていくことに深い喜びと誇りを感じている。

経済面のあるべき姿

社会面のあるべき姿

環境面のあるべき姿

ブランディング

SDGs姉妹都市提携  
(SDGs未来都市構想の推進)

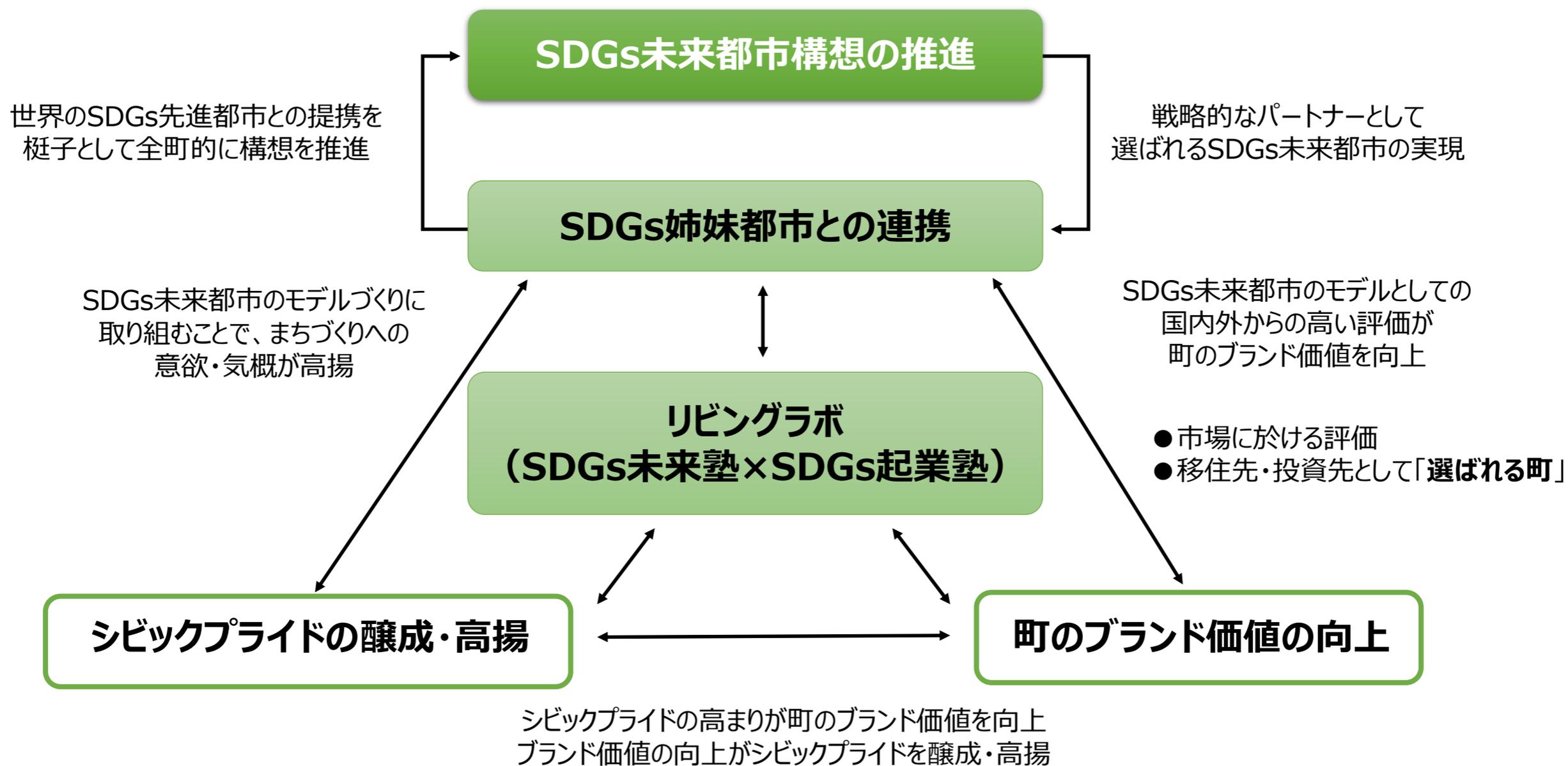
岩手町の  
持続可能性向上

シビックプライド(※)

※シビックプライド = 「シビック(市民の/都市の)」には権利と義務を持って活動する主体としての市民性、という意味があることから、「郷土愛」という地域に対する愛着の意味だけでなく、**自分自身に関わることで地域を良くしていこうとする、当事者意識に基づく自負心などを含めた表現の言葉**として日本でも認知が進んでいる。

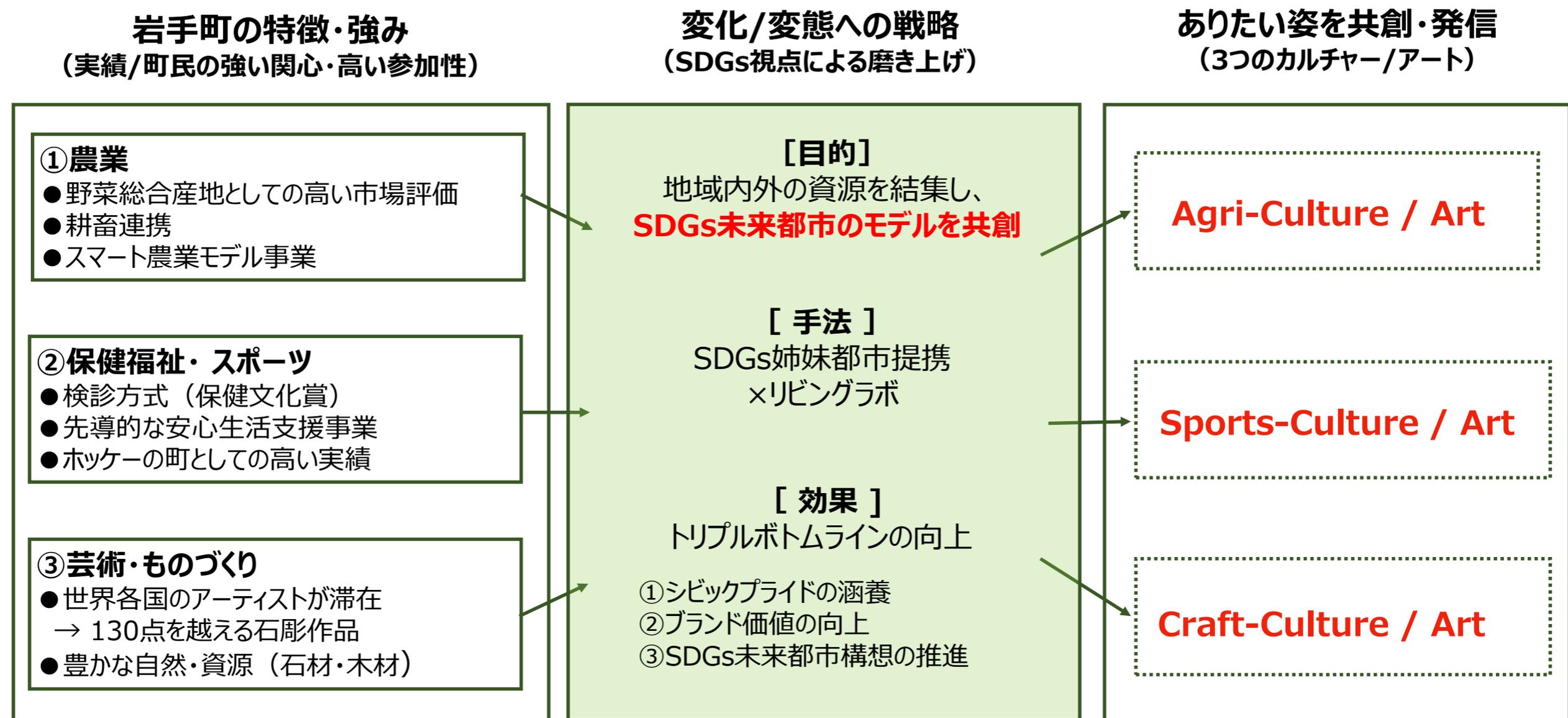
# 自治体モデル事業におけるSDGs姉妹都市とリビングラボ関連図

- SDGs姉妹都市提携とリビングラボの両輪により、トリプルボトムラインを向上させながら、全町的にSDGs未来都市構想を推進
- 町と関わり合うことでシビックプライドの高まりが感じられるブランドとしての価値を形成・確立  
→「**選ばれる町**」を実現



# 【提案の骨子】SDGs未来都市に相応しい3つのカルチャー/アートを共創

- 「リビングラボ」を通じて地域内外の様々な人々と共に学び合う創造的な関係を構築  
 → 岩手町の強みをSDGsの視点から磨き上げ、国際競争力のある「3つのカルチャー/アート」を共創していくことで、世界とつながる



# 【提案の全体像】町の未来を担うSDGs人材（地域共創人材）の育成

●「まちづくりは人づくり」が王道

●「地域の自然・歴史・文化に根ざした知恵 × 先進的な知見・先端的な技術」で二項対立・三項鼎立の関係を乗り越え、環境・経済・社会の価値を一体的に向上させるアプローチ（3つのカルチャー/アート）を共創

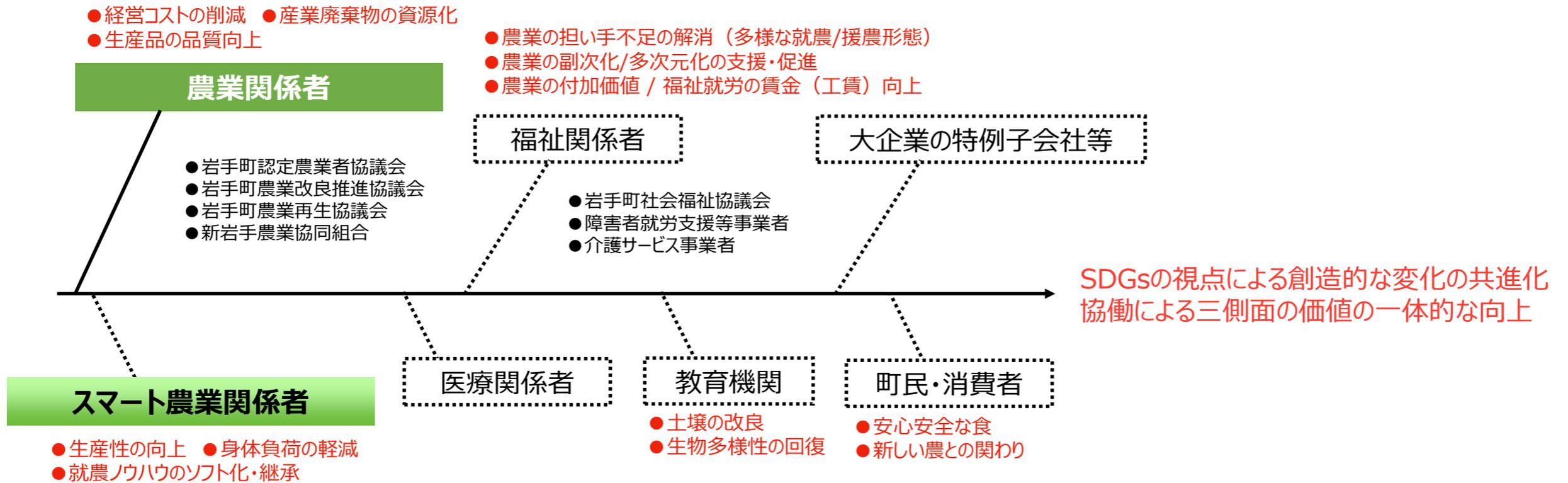


\*戦略的なSDGs人材（地域共創人材）

自己実現と地域社会課題の解決とを高いレベルで融合・合致させ、地域内外の人や企業・団体等と積極的に関わり合いながら地域の未来を共創する、SDGs未来都市構想を推進する核となる人材

# リビングラボの活動の具体的なイメージ（Agri-Culture/Artの場合）

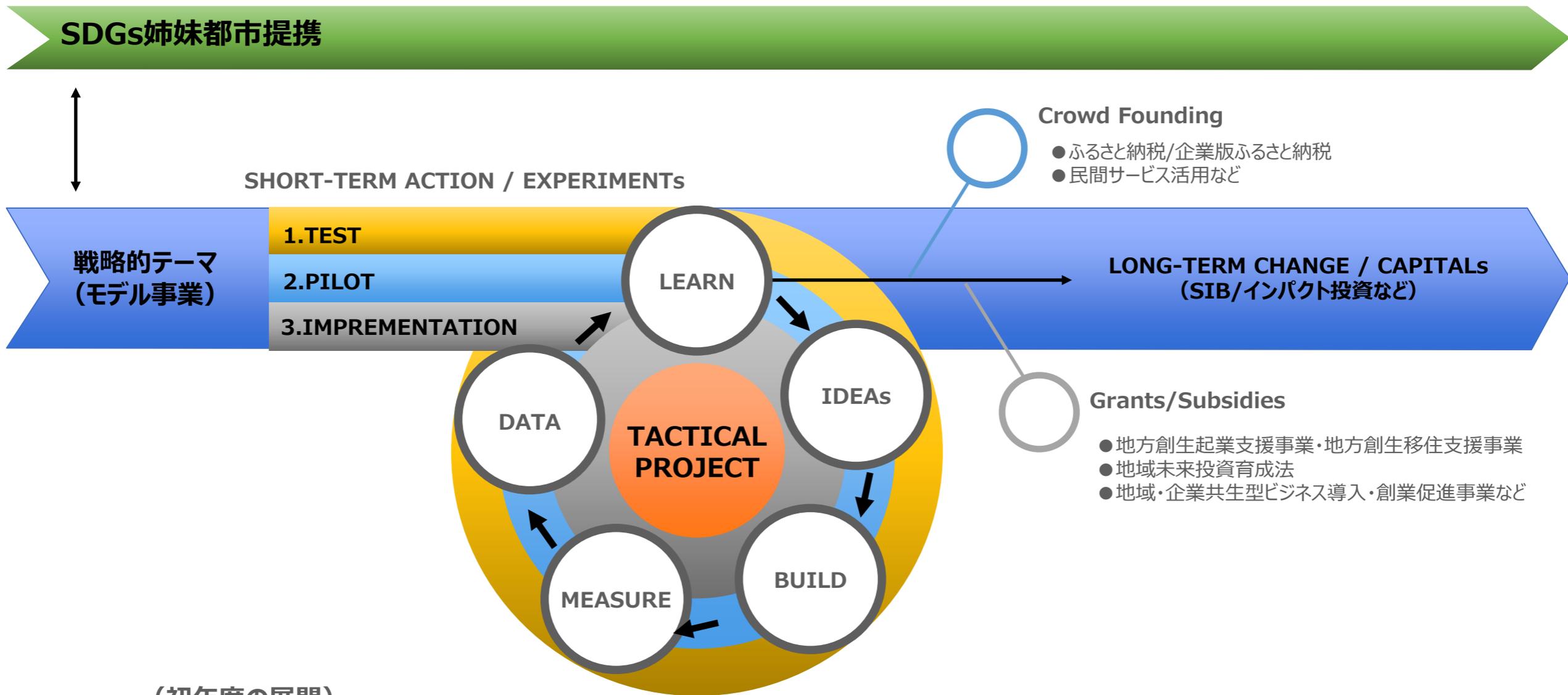
スマート農業による農福連携の可能性・諸課題を整理



\*ICF : International Classification of Functioning, Disability and Health, 国際生活機能分類 (WHO, 2001)  
写真は、令和元年度に於いて株式会社アンドファーム他が実施したスマート農業技術の一環体系の実証事業の資料より抜粋

# リビングラボ（SDGs未来塾/SDGs起業塾）の展開イメージ ① 実施プロセス

- 経済・社会・環境の三側面をつなぐ戦略的なテーマ/プロジェクトを設定
- 短期間での小さなアクションを積み重ねながら、長期的に大きな変化を創造

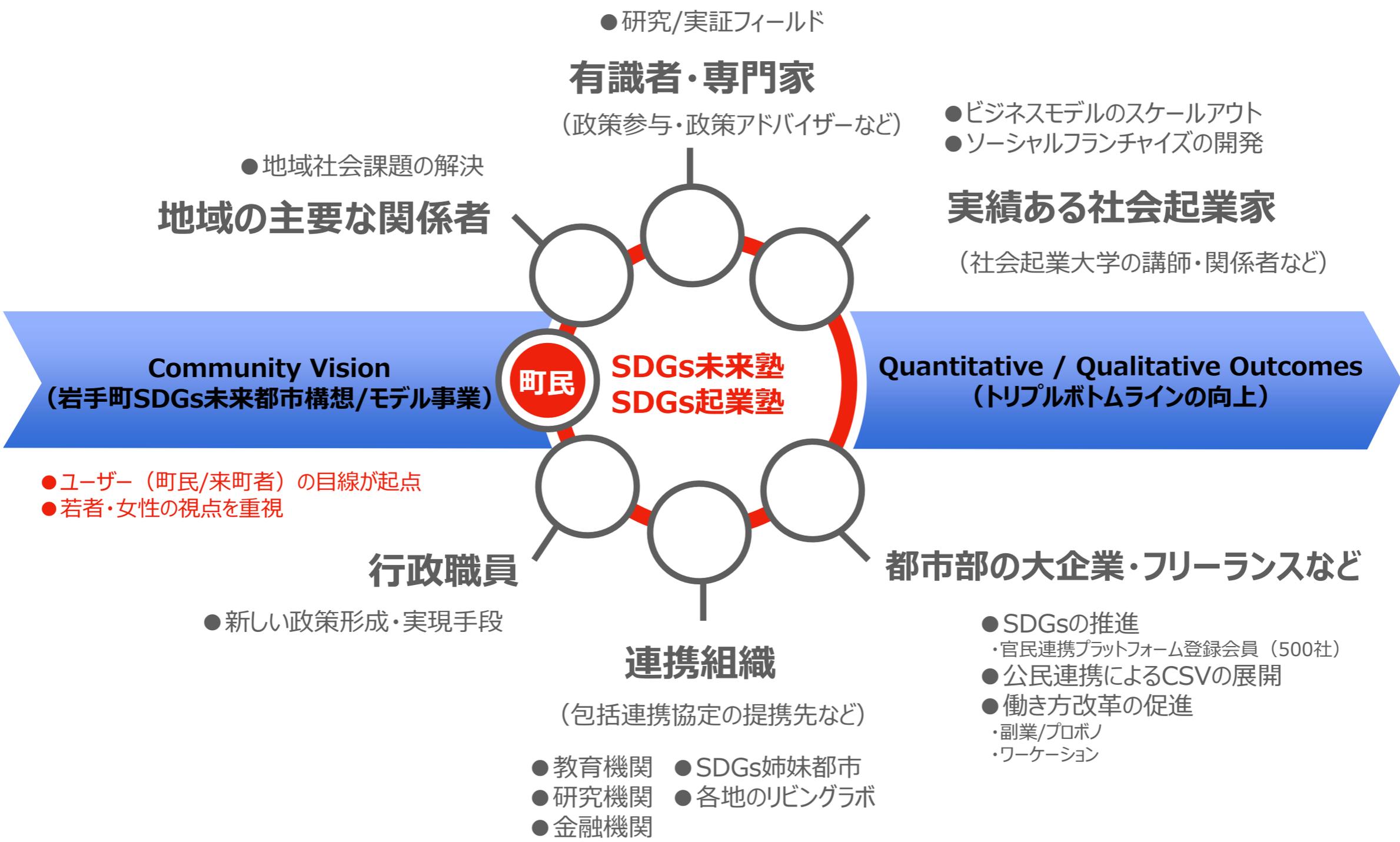


(初年度の展開)



# リビングラボ（SDGs未来塾/SDGs起業塾）の展開イメージ ② 多様な関係者によるエコシステムの形成

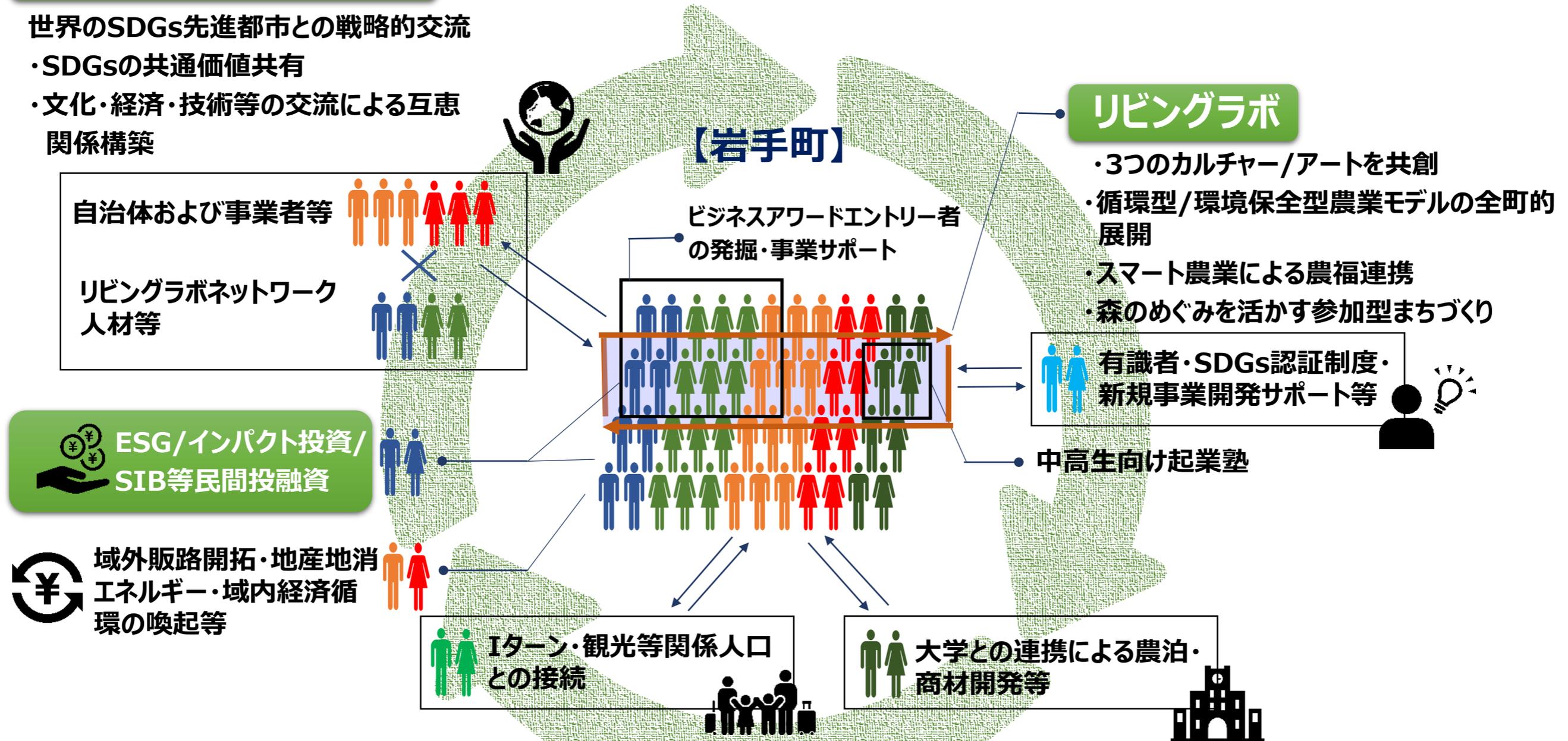
町民（若者・女性の視点を重視）を起点として、地域の主要なステイクホルダー、岩手町と関わり合いたいと考える様々な分野の有識者・専門家、アーティスト、企業・団体等とともに「3つのカルチャー/アート」を磨き上げていくことで、共に学び合い、育て合う創造的な関係を築きながら、持続的なSDGs未来都市/スマートシティを構築していくエコシステムの核をつくる。



## SDGs姉妹都市提携

世界のSDGs先進都市との戦略的交流

- ・SDGsの共通価値共有
- ・文化・経済・技術等の交流による互恵関係構築



**町の次世代を担い、持続可能な新しい「しごと」を創出するSDGs人材(地域共創人材)の発掘・育成  
ラボ機能の充足と経済循環ネットワークの形成**

高い  
汎用性

**【基本的なモデル/手法】**  
トリプルボトムラインによる町の持続可能性向上のマネジメント  
  
地域の特性を活かした  
SDGs姉妹都市提携×リビングラボの構築  
(SDGs視点により強みを磨き上げていく創造的なエコシステムの形成)

×

地域の  
独自性

**経済面の取り組み**  
(農業に重点)

中山間地域に広く普及・展開が可能  
(耕種農家と畜産農家のバランスが重要)

**社会面の取り組み**  
(健康・スポーツに特徴)

自然環境の残る都市近郊や地方部への適用が妥当  
(主として自然/森林環境が持つ健康への恩恵を活用)

**環境面の取り組み**  
(森林資源の活用を企図)

中山間地域への普及・展開が可能  
(豊かな森林/水資源を活かす責務を有する自治体等)